



とねしょうかわらばん がつ にちばん 6月18日版

こくご ものがたりぶん ねん ねん ねん ねん ねん こくご ものがたりぶん がくしゅう しょうかい
国語・物語文(3年・4年・5年・6年)…国語の物語文の学習について、ご紹介しします。

3年生「はりねずみと金貨」。登場人物を確かめて、どんな出来事が起こるのかということ整理しながら、友達と読んでいます。とても心あたまる内容です。くまの子が冬ごもり前に、年おいたはりねずみにはちみつをわたす場面があります。「子ぐまにとっても大切なものなのに、どうしてわたしたんだろう？」という疑問を持った子がいます。先生が、その疑問をみんなになげかけると、「それもそうだなあ。」とおもった子たちが、その理由を考え意見を交流していました。



4年生「走れ」。こちらは、中心人物の心の変化に注目しながら、読んでいました。どんな出来事によって、中心人物の心が変化するのかを友達と交流しながら考えました。



5年生「世界で一番やかしい音」。こちら、中心人物の心の変化に注目するのですが、さらに、山場(クライマックス場面)を意識したものがたりこうせいめむものがたりたのあじないう物語の構成にも目を向け、物語の楽しさ、おもしろさを味わう内容になっています。題名だけでも、どんな物語なのか気になりますか？

6年生「嵐切るつばさ」。中心人物に注目することはもちろん、その作品から自分が一番強く感じとったことについても交流します。下の写真の授業では、場面ごとに自分の言葉でまとめていました。それぞれ違う言葉でまとめていて、なるほどと感心しました。

やはり教室で、みんなと同じ物語について考え、意見を交流することは、「自分とは違う考えもあるんだな」、「その考え方もおもしろいな」等と感じ、自分だけでは気づかなかったことに気づくことができる素晴らしいチャンスです。お家では、音読の練習をし、保護者の方にもご協力いただいていることと思います。物語について、親子でちょっと話してみるのもいいかもしれませんね。物語文の学習をきっかけに、いろいろな本を読んでみたいなと思ってもらえるとうれしいです。

